第 61 次南極観測隊にインタビュー

やまざき　かいへい
山崎開平さん

・北海道大学低温科学研究所（環境科学院）所属。
専門は海洋物理学。趣味はバックカントリースキー。

南極観測隊に参加したきっかけはなんですか？

私が所属する研究室のボスである青木茂さんがこの度観測隊長を務めることになり、その助けになれればと参加を決めました。海洋観測というのは地球の血液検査のようなもので、海を調べることで、地球の健康状態について知ることができます。特に南極氷床の融解に伴う海面上昇は、沿岸域に多くの都市部を抱える国際社会にとっては一大事なので、原因究明と将来予測が求められています。私は大学山岳部で雪山に情熱を注いできました。そこで、南極のような僻地で地球の自然を守る活動ができればと思ったのが、この研究を始めた経緯です。

第 61 次隊ではどんな研究やお仕事をされるのですか？何が楽しみですか？

主に、海洋観測に従事します。具体的には、水温・塩分センサー観測のオペレーション、各種採水（血液検査と同じく様々な測定項目があります）、係留観測システムの設置、自動ロボットフロートや海氷係留ブイの展開、ヘリからの海洋センサー観測補助などです。このほかに、昭和基地周辺では海氷モニタリング観測や地学観測のお手伝いをします。何といっても本隊で楽しみなのは、「しらせ」の強大な砕氷能力をもって人類未踏の海域を目指すということです。往路と復路で立ち寄るトッテン棚氷沖は、氷床融解への潜在的なインパクトが示唆されながらも、ほとんど観測されてきませんでした。これは、厚い氷を割れる砕氷船を保有する国が限られていることが理由です。61 次隊では海洋観測に多くの時間をいただけることになり、大変ありがたく思います。

一言メッセージをお願いします！

私たちは海から生まれ、海に生かされています。地球の肺である南極海に、少しでも興味を持っていただけたら嬉しいです！